

令和元年度
事業報告書



社会福祉法人 永光会

特別養護老人ホーム永光荘

管理部

特養部

居宅ケア部

- ・永光荘デイサービスセンター
- ・永光荘ショートステイ

もくじ

1. はじめに	… 1
2. 管理部	… 3
1) 年度目標	… 3
2) 年度目標に対する取組み結果	… 3
3) 総務課	… 3
4) 用務課	… 4
5) 職員健康診断等状況	… 6
6) 施設不在者投票	… 6
7) 付表 表1～表5	… 6
3. 特養部	… 10
1) 年度目標	… 10
2) 年度目標に対する取組み結果	… 10
3) 介護課	… 10
4) 看護課	… 11
5) 栄養課	… 11
6) リスクマネジメント	… 11
7) 付表 表1～表7	… 12
8) オンブズマン報告	… 16
9) 会議実施状況	… 16
10) 行事報告	… 18
4. 居宅ケア部	… 19
1) 年度目標	… 19
2) 年度目標に対する取組み結果	… 19
3) 看護課	… 19
4) デイサービス	… 20
5) ショートステイ	… 20
6) 付表 表1～表7	… 22
7) 居宅ケア部活動状況	… 24
5. 整備関係整備年表	… 25

1. はじめに

令和元年度は、給食業務委託という年度当初より予定外の大きな対応を求められた。

直接的な原因は、短期間に複数の調理員が急遽退職したためであったが、数年続く求人難の状況に対応できていなかったことが混乱を招いた大きな要因と考える。

介護・看護だけではなく、求人そのものに対する反応が悪い状況が数年続いている。その中で、これまでの常勤を主体とした雇用ではなく、個人のニーズに合わせた働き方を柔軟に受け入れ対応するように各部門は改革してきたが、栄養・調理部門は、それまでの組織を何とか維持できていたために、多様な在り方の検討が進まない中、急激な状況変化に対応できなかった。

幸い、委託業者の尽力もあり、利用者への給食提供に大きな支障なく移行でき、食事内容についても利用者から好評をいただいていることはよかった。

この反省を基に、雇用の確保に対して柔軟に対応できるように業務の仕分けを進めていきたい。

新型コロナウイルスについては、居宅系事業にすぐに影響が出てきた。詳細は、各部門の報告のとおりである。

施設内感染予防に関しては、感染症マニュアル及び新型インフルエンザ対応業務継続計画をベースに関係機関から発出される情報を活用し対応している。

慢性疾患を持つ高齢者への影響が大きいというこの感染症は、世間的な収束ではなく、罹患防止や感染時の治療の確立が我々にとっての収束時となるため、先の長い対応が求められる。

職員のストレスへの対応を含め、状況に合わせて対応を進めていきたい。

施設運営方針に基く取組状況は、以下のとおりである。

1) 利用者に対する基本姿勢

①人権の尊重

新規採用オリエンテーション時に「身体拘束等適正化のための指針」の研修を実施した。

6月に平成30年12月の研修「アンガーマネジメント」の振り返りからストレスサー確認と軽減される方法をグループワーク（ワールドカフェスタイル）で実施した。

12月は、「ハラスメントについて」誰でもハラスメンターになり得る。自分の言動を振り返り、その言動を『私』メッセージに置き換える研修を実施した。

②マニュアルの見直し

感染症マニュアルのうち、標準予防策を一つにまとめた他、インフルエンザ、ノロウイルスの見直しを行った。

2) 社会に対する基本姿勢

地域における公益的な取組

法人本部事業報告参照

3) 福祉人材に対する基本姿勢

研修会への参加、資格取得等、詳細は、各部門の報告のとおりである。

人事考課制度に向けた個人目標設定のための面接を実施した。

産休・育休取得者 3 人

4) マネジメントに対する基本姿勢

①部長会議 1 回／月

メンバー：施設長・事務長・特養部部長・居宅ケア部副部長・地域包括副部長

法人運営会議を受け、永光荘各部としての取組みを検討協議。

各部の実績の確認や課題についての協議。

②課長会議 1 回／月

メンバー：施設長・事務長・用務課長

特 養 部：部長（栄養調理課長兼務）・介護課長・施設ケアマネ・
看護課長

居宅ケア部：副部長・介護課長・看護課長

居宅支援課長・地域包括副部長

部長会議での協議内容についての伝達指示。

各課の現状と課題についての報告・協議。

③施設稼働率

特 養 部：ベッド稼働率 94.0% （目標：94.0%）

居宅ケア部：ショートステイ 10.49人 （目標：10.5人）

*特養との合算ベッド稼働率 96.1% （目標：96.1%）

デイサービス 前年度比 769人増

2. 管理部

令和元年度は、日本各地で台風の通過や地震の発生に伴う、大規模な水害や建物等の倒壊が起き、あらためて施設の安全性や地域との連携について感じさせられた年度であった。永光荘でも、群馬県災害派遣福祉チームに管理部から参加し、被災地での応援業務に携わり貴重な経験を積んだことや、以前より安全性に問題のあった西側のブロック塀を改修するなど具体的な取組みを実施することができた。

また、介護アルバイトの留学生が4月から初めて永光荘の正社員となり、その後も外国籍の介護アルバイトの採用が継続するなど外国籍職員に関する新たな雇用管理も必要となった。令和元年度の年度目標に掲げた各項目の取組み結果は以下のとおりである。

1) 年度目標

- (1) 外国人雇用に関する行政機関による諸施策の理解及び法人への影響の検討並びに関連する法人規程の整備及び見直し。(2件以上)
- (2) 5S活動による施設環境の保全や職員の職場環境の改善を検討提案し、結果として利用者の笑顔につなげていく。
- (3) 来荘者に対する丁寧な応接と利用者の無断外出の防止(無断外出者0)

2) 年度目標に対する取組み結果

- (1) 東京出入国管理局等の主催による外国人雇用管理セミナーを初めとする説明会や介護福祉士養成校の連絡協議会への参加を通じ、外国籍職員の雇用に関する手続きや注意点について研修し実務に反映させた。今年度は大きな問題もなく、一つひとつ対応することができた。関連規程の見直しとしては、対象に留学生も含まれる修学資金貸与規程の返済免除期間を2年から5年へと延長し、その結果最低でも5年間は永光会で勤務するように雇用の安定化を図った。また、ストレスチェックや健康診断等が適正に実施されるように、質問項目等について母国語で理解できるように支援を行った。
- (2) 用務課を中心として空調機のフィルター清掃や施設内の毎日の消毒など利用者や職員にとって良好な環境の維持に努めた。また、今年度の大きな課題であった有休5日取得義務化については、四半期ごとに幹部職員を通じて取得状況を報告し、取得を促した結果、全職員が達成することができた。
- (3) 利用者の安全を第一優先し、来荘者がいる場合には帰宅願望のある利用者の動きに細心の注意を払い窓口業務を行った。結果として、無断外出者0とすることができた。

3) 総務課

(1) 総務係

①年度目標

1. 業務の効率化を推進し、定常業務に係る超過勤務ゼロをめざす。
2. マニュアルの活用により、係員の共通業務における業務品質の安定と作業時間の短縮によるコスト削減

②年度目標に対する取組み結果

1. 月次の処理事項について内容を精査し、月中で処理していたもののうち月末に処理できるものは一括して行い、作業効率を高めた。また、清流の郷も含めた総務関係の会議で、事務処理方法や書式の統一などの課題を協議しながら、スムーズな事務処理を実施した。
2. 総務係内で使用する各種の手配・手順の見直しとそのマニュアル化を行い、どの係員でも同じ手配ができるように業務品質の安定化と作業時間の短縮を図った。

(2) 経理係

①年度目標

1. 未収金の件数や金額を前年度の半分に減らす。
2. 会計処理等においてミス0をめざし、迅速な処理を心掛ける。

②年度目標に対する取組み結果

1. 回収が遅延していた利用料の未収金について、各事業担当者と連携し、回収に努めた。前年度末では15件（合計432,330円）であったが、今年度末は、2件(合計121,465円)であった。引き続き早期回収に努めたい。
2. 通常業務を効率的に行うことによって時間の短縮を図り、チェック時間を確保することによってミスを減らすことができた。また、ミスが生じた場合でも、職員間の相互チェックにより修正することができた。まず、担当者各々がミスをしないように、スピーディーかつ正確な処理を心掛けたい。

4) 用務課

(1) 年度目標

1. 快適な住環境の整備
2. デマンド上限130Kwhを目標として、適切な電気使用による省エネ推進
3. 労働衛生の強化
4. 用務課スローガン：「かくれんぼ」

(2) 年度目標に対する取組み結果

1. 快適な住環境の整備
 - (a) 適切な整備備品の保守管理及び更新
プロパン設備修理、乾燥機修理、ボイラー煙突修理、ボイラー修理、スプリンクラー修理、水道メーター交換、ブロック塀解体フェンス工事、ロータリーブロワー交換を実施した。
 - (b) 機器メンテナンスを強化し、できる限り機器の寿命を伸ばし、安全に使用できるように点検、清掃、修理を行う。
エアコンの清掃(月1回、5月に水洗い)。ボイラーの定期的な点検清掃。
非常用バッテリーの試運転(毎月1回)。
 - (c) 野菜の播種育苗、生育及び収穫の喜びを利用者、職員と共有する。

- 園芸は、生育、収穫、鑑賞を通じて、四季を感じられた。花卉は廊下からも見えるように植栽を工夫して、花の少ない冬も楽しめる品種にした。
- (d) 防災計画をベースに、訓練機器等の点検を行い、安全で安心な施設を維持する。

計画に則り、特養部3回、居宅ケア部2回実施した。一斉メール配信システムによる連絡確認を行った。11月の講習会では、渋川広域消防署署員によるAED講習を受講した。

2. デマンド上限130kwを目標として、適切な電気使用・省エネの推進

- (a) 必要な時に空調照明がON、不必要な時はOFFの徹底。
換気の際15分程度ならば、空調はONが効率的だが、15分以上の場合が多く見られた。
- (b) 空調設定温度の遵守（冷房期26℃、暖房期22℃）。
利用者の状態により、温度変更を行い、適切に守られた。
- (c) デマンド数値、警告（上限130kw）守るために職員意識の啓発。
ピークカットを図り、省エネに結びつけられた。130kwの目標に対して、127kwの結果が得られ、LEDを設置した平成30年度と比較して12.6%ダウンした。

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
瞬時使用電力 kw	156.7	138.7	132.0	133.0	127.0
使用電気量 kWh	501,161	443,321	471,083	443,172	387,125

- (d) 省エネにつながる方法の創意工夫
施設内外の照明をLED（平成31年3月）に変更して、照度を適切に設定した。

3. 労働衛生の強化

- (a) 毎日の健康チェックと水分補給。
出勤時に体温を含め体調チェックを必ず記入している。水分補給については夏場、特に摂るようにしている。
- (b) 感染症対策として手洗い、うがい、マスク着用。
手洗い、うがい、マスク着用は感染症が疑われる時期には特に強化して実施した。

4. スローガン：「かくれんぼ」

- (a) 確認：正しく伝わっているか「確認」。
言ったことを正しく伝わっているか「確認」することでお互いを確認した。
- (b) 連絡：関係する部署へすぐ「連絡」。
すぐ連絡して情報を共有してミスを減らすことができた。
- (c) 報告：上長の関心事に対してタイムリーな「報告」。
経過が思わしくないときはアドバイスをもらい、いい方向性が見いだせた。

5) 職員健康診断等状況

1. 職員健康診断状況

令和 元年 6月10日 63人 (全体職員検診)
令和 元年 12月 3日～26日 35人 (夜勤職員検診)

2. 職員インフルエンザ予防接種状況

令和 元年 11月 7日～26日 79人接種

3. ストレスチェック実施状況

令和 元年 11月 24日～30日 71人受検

6) 施設不在者投票 (特別養護老人ホーム利用者)

1. 参議院議員通常選挙・群馬県知事選挙

令和 元年 7月 18日 不在者投票 34人

7) 付表

1. 施設整備等実施状況

表 1

項 目	内 容	備考
施設備品購入	・オゾン除菌脱臭機 1台	774千円 令和 元年 4月 19日購入
	・超低床ベッド 7台	1,822千円 令和 2年 1月 29日購入
	・マイトリジット車椅子 5台	560千円 令和 2年 3月 31日購入
	・チルトクライニング車椅子 3台	330千円 令和 2年 3月 31日購入
	・マッスルスーツ 1台	149千円 令和 2年 3月 31日購入
	・温冷配膳車 5台	6,741千円 令和 元年 11月 1日賃借
施設修繕	・西側フェンス設置工事	1,738千円 令和 2年 1月 31日実施

2. 施設外研修と会議

表 2

出席件数（延べ人数）

職 種	部会・定例会・会議	一般研修	県外研修
施設長	6 6 (6 6)	1 4 (1 4)	4 (4)
特養部長	7 (7)	8 (8)	0 (0)
特養介護支援専門員	1 (1)	9 (9)	0 (0)
特養介護職	0 (0)	5 6 (8 3)	0 (0)
特養看護職	1 (1)	7 (9)	0 (0)
特養給食職	1 (1)	4 (4)	0 (0)
特養事務職	1 9 (1 9)	3 3 (3 4)	0 (0)
居宅ケア副部長	6 (6)	1 1 (1 1)	0 (0)
居宅ケア介護職	0 (0)	2 2 (2 3)	0 (0)
居宅ケア看護職	0 (0)	2 (2)	0 (0)

3. 会議及び委員会の実施状況

表 3

会議名	実施回数	出席数	参加者	会議の内容
部 長 会 議	12 回	5 人	施設長、事務長、部長 副部長	各部門懸案事項の検討 方針決定、月次収支報告
課 長 会 議	12 回	13 人	施設長、事務長、部長 副部長、課長	各課懸案事項の審議 方針の徹底
衛 生 委 員 会	12 回	14 人	施設長、委員、嘱託医	施設の安全衛生に関するこ と
食 支 援 委 員 会	12 回	10 人	施設長、部長、管理栄養 士、委員、給食業者	給食に関する事項審議 行事食、処遇改善策
永光荘しんぶん 委員会	6 回	5 人	委員	永光荘しんぶんの企画検 討、編集、反省
防災管理委員会	9 回	5 人	施設長、委員	施設防災計画、訓練、安全 管理の企画点検など
行 事 委 員 会	12 回	7 人	施設長、委員	行事の企画、反省
人事考課検討 委員会	13 回	4 人	施設長、委員	人事考課導入についての検 討・立案
施設整備検討 委員会	1 回	5 人	施設長、委員	施設整備・備品購入に ついでの検討

・令和2年3月12日の防災訓練後の防災協力員との意見交換会は、コロナウィルス感染防止のため中止。

4. 職員の配置状況

表 4

	永光荘			デイサービス		
	人数	年齢 (平均)	勤続 (平均)	人数	年齢 (平均)	勤続 (平均)
施設長	1	59	33	(1)		
事務員	5	44	10	(5)		
生活相談員	2	45	23	1	45	13
				(4)		
介護支援専門員	1	59	19			
介護職員	36	33	8	8	45	10
(非常勤)	11	40	4	2	38	4
看護職員	4	57	12	2	59	6
(非常勤)	2	66	13	2	52	3
機能訓練指導員	(1)			(2)		
(非常勤)				(2)		
管理栄養士	1	24	1	(1)		
				(1)		
調理員	5	37	7	(5)		
(非常勤)	5	61	10	(5)		
医師						
(非常勤)	(5)					
用務職員	2	65	20			
(非常勤)						
合計 常勤	52	38	10	11	47	10
(非常勤)	13	44	5	4	45	4

() は兼務

令和2年3月31日現在

- ・デイサービスの生活相談員3人は介護職員が兼務
- ・永光荘・デイサービスの機能訓練指導員は看護職員が兼務
- ・兼務者は合計から除外 年齢、勤続の合計は平均

5. 職員の資格取得状況

表 5

	介護福祉士	介護支援専門員	看護師	准看護師	管理栄養士	栄養士	認定特定行為業務 (喀痰吸引)従事者	介護職員初任者 研修	認知症介護実践者 研修	防火管理者	衛生責任者	危険物取扱者
(特養)												
生活相談員	1	1										
介護支援専門員	1	1					1					
介護職員	23	1				1	13	6	3	2		
看護職員		1	1	6								
栄養士					1							
事務職員											2	2
用務職員										1		
(ショート)												
生活相談員	1	1						1	1			
介護職員	3						2		2			
(デイ)												
生活相談員	1	1							1			
介護職員	9						2		3	1		
看護職員		1	1	3								
合計	39	7	2	9	1	1	18	7	10	4	2	2
前年度合計	33	6	2	8	1	3	21	10	7	4	1	2

・重複資格取得者あり。 非常勤職員含む。

令和2年3月31日現在

3. 特養部

令和元年度「すべては利用者の笑顔のために」を掲げ、利用者個々の人権と価値観を尊重し、楽しく笑顔で健康な日常生活が送れるよう、各職員が専門性を発揮し支援を行った。また、その専門性を研修を通じて高めつつ自己研鑽し、モチベーションアップや人材定着にもつながったと考えている。

1) 年度目標

- (1) 94%以上のベッド稼働率を維持する。
- (2) 人材確保と定着を図る。
- (3) 利用者個々の人権と価値観を尊重する。

2) 年度目標に対する取組み結果

- (1) 令和元年度は、94.0%の稼働率を辛うじて維持できた。その要因として、表2、3、5に示すとおり、5月の稼働率が91.3%と極端に低く、大型連休前に急な退所者や入院者が発生し、入所調整に手間取ってしまったことが大きく影響した。また、表1の通り、入所調整について平成30年度までは入所前所在の老人保健施設が複数名あったが、令和元年度は1件のみであった。その反面、サービス付高齢者住宅からの入所が0件から7件と大きく増えている。入所まで日数を要した原因として、サービス付高齢者住宅は契約期間が月末までということがあり、月末まで入所を待つという状況が発生したことが挙げられる。
- (2) 人材確保については、表6の通り、実習生やボランティアを積極的に受入れ、アルバイトも継続して雇用することで、将来の正規職員の確保策として実施できた。

人材の定着については、専門職としての役割を十分に発揮し、仕事にやりがいを持てるよう、表7のとおり、多くの研修に参加できる環境を整え、知識と技術力の向上を図った。また、全職員に対して面接を行い、今後の仕事に対しての意気込みや目標を確認した。

- (3) 「永光会職員行動規範」を基に自己チェックすることで、社会福祉法人の職員としての基本姿勢を改めて職員が自覚し、利用者の接遇改善に取り組んだ。また、集団ではなく個別性を重視し、普段の生活からの情報収集やオンブズマンからの情報提供により得た情報をもとに個別処遇に努めた。

3) 介護課

4大ケア（水分・食事・排泄・運動）の実践については、利用者個々の実施状況について記録を取り、係別会議において状況確認と課題に対しての検討を毎月実施した。水分摂取においては目標数値を定め、達成に向けて取組みを行い、食事に関しては、摂取量と状態変化に応じた食事形態や摂取方法について委員会や係別会議において検討し対応した。実際に入院者数も減少傾向であり、免疫力アップや疾病予防に効果があったと考えている。

また、介護技術の統一や職員教育、仕事の充実、成長については、表7のとおり、数多くの研修に参加し、そこで得た知識や技術を持ち帰り、施設内会議や委員会において共通理解を図った。

利用者の接遇と施設職員としての基本姿勢については「永光会職員行動規範」に基づき自己チェックをした上で、面接を重ね利用者の人権の尊重と資質の向上を促した。意識付けという意味では一定の効果があったと考えている。

4) 看護課

利用者の日々の健康管理を徹底し、他の専門職と連携することで状態変化に対して早期発見、早期対応を心掛けた。実際に表5のとおり、昨年と比較しても入院者数は減少しており、平均2週間程度の入院期間で退院できている。

また、看取りについては表1のとおり、13人を施設で看取ったが、急変による方が6人で看取り計画書に基づく看取りは7人であった。その7人については嘱託医を含めた施設内の多職種で協働し、本人家族の意向に沿った看取りを実施できた。

5) 栄養課

年度当初は、自前の調理による給食の提供を行っていたが、調理員の急な退職に伴い、提供が困難となった。そのため、8月より給食業務を外部業者に委託し対応することとなった。業務委託後も利用者の健康維持と食べる楽しみを持ってもらうため、食支援委員会に委託業者スタッフと調理員にも毎月参加してもらい、利用者と職員からの意見を基に、より質の高い給食を提供するため、連携した。行事食も今まで行っていない外食(大手チェーンの牛丼・ハンバーガー)を提供し、多くの利用者から以前から食べてみたいと思っていたなどと好評を受けた。また、正月もおせち料理を祝い膳の形で提供するなど今までなかった新たな試みも実施した。

6) リスクマネジメント

事故発生を少しでも防ぐため、事故・ヒヤリハット報告書をもとに現場職員での原因と再発防止策を検討し実行した。

事故防止委員会を中心に施設内環境と設備の点検を定期的に行い、改善点を挙げ対処した。

また、介護事故も多数見られたため、引き続きスキルアップ委員会を中心として、業務の見直しや介護技術と知識向上のため、勉強会の開催と内部研修を継続していく。

7) 付表

表1 入退所者状況

入退所者数 () は前年度人数

	入所者数	退所者数
男	4人 (6)	5人 (6)
女	17人 (14)	16人 (16)
合計	21人 (20)	21人 (22)

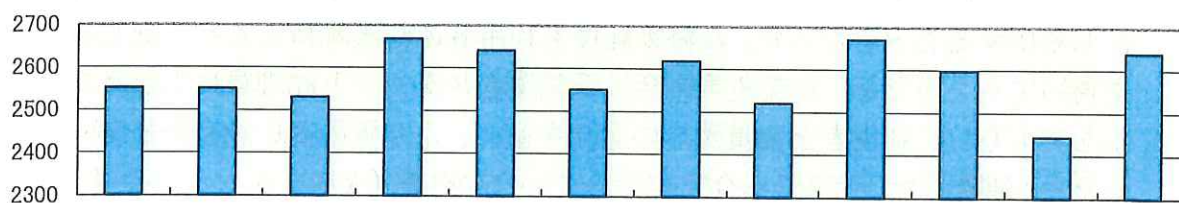
入所前所在状況 () は前年度人数

	病院	老人保健施設	在宅	有料老人ホーム
男	3人 (3)	0人 (0)	0人 (3)	1人 (0)
女	4人 (5)	1人 (5)	6人 (4)	6人 (0)

退所者内訳 () は前年度人数

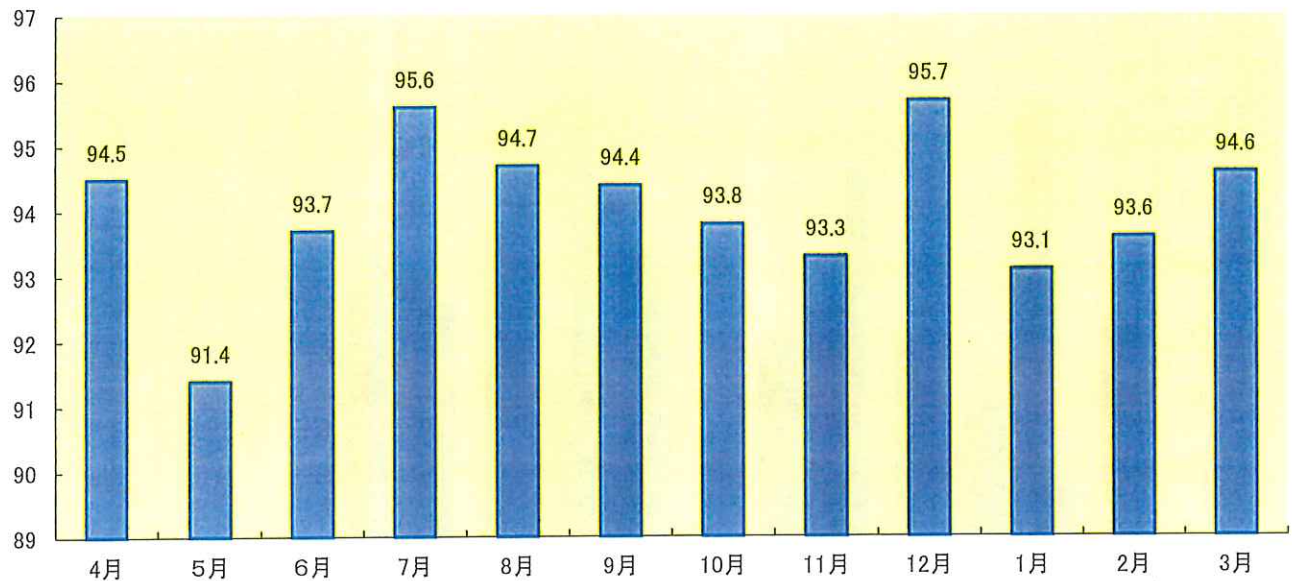
	死亡 (看取)	死亡 (病院)	他施設	医療機関
男	4人 (1)	1人 (5)	0人 (0)	0人 (0)
女	9人 (6)	6人 (6)	0人 (2)	1人 (2)
合計	13人 (7)	7人 (11)	0人 (2)	1人 (2)

表2 月別利用者数の推移 (単位: 人)



延利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
令和元年度	2,551	2,550	2,531	2,668	2,641	2,550	2,618	2,520	2,670	2,597	2,443	2,639	30,978
平成30年度	2,612	2,721	2,580	2,634	2,616	2,578	2,711	2,523	2,633	2,629	2,334	2,599	31,179

表3 ベッド稼働率（月別推移 単位：％）



令和元年度累計・・・94.0％

表4 要介護度別実利用者数（年度末月の実数）

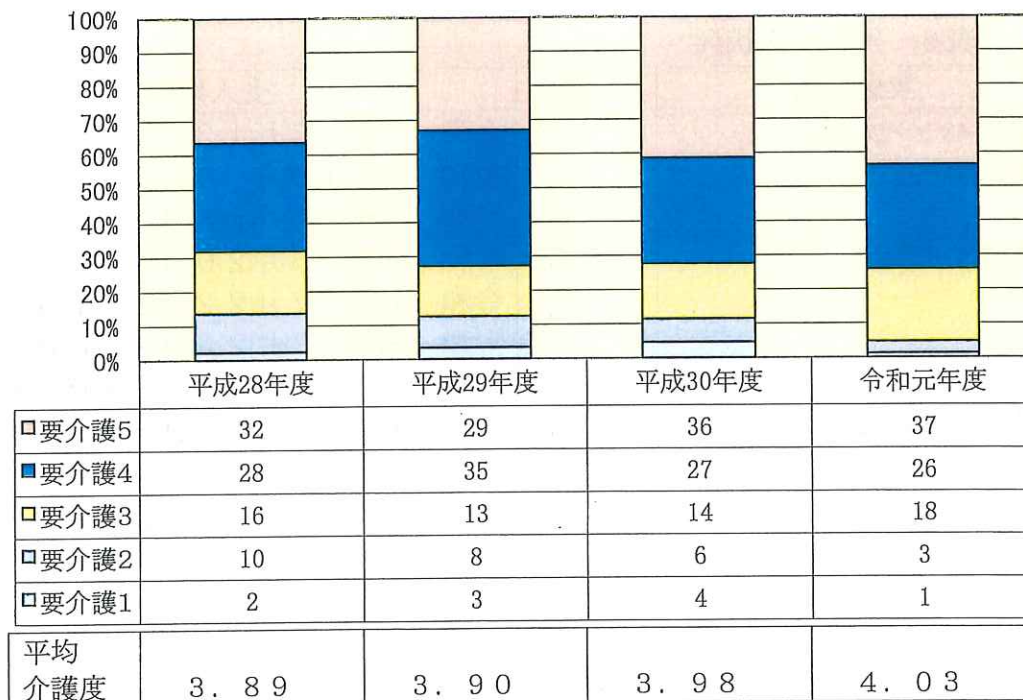
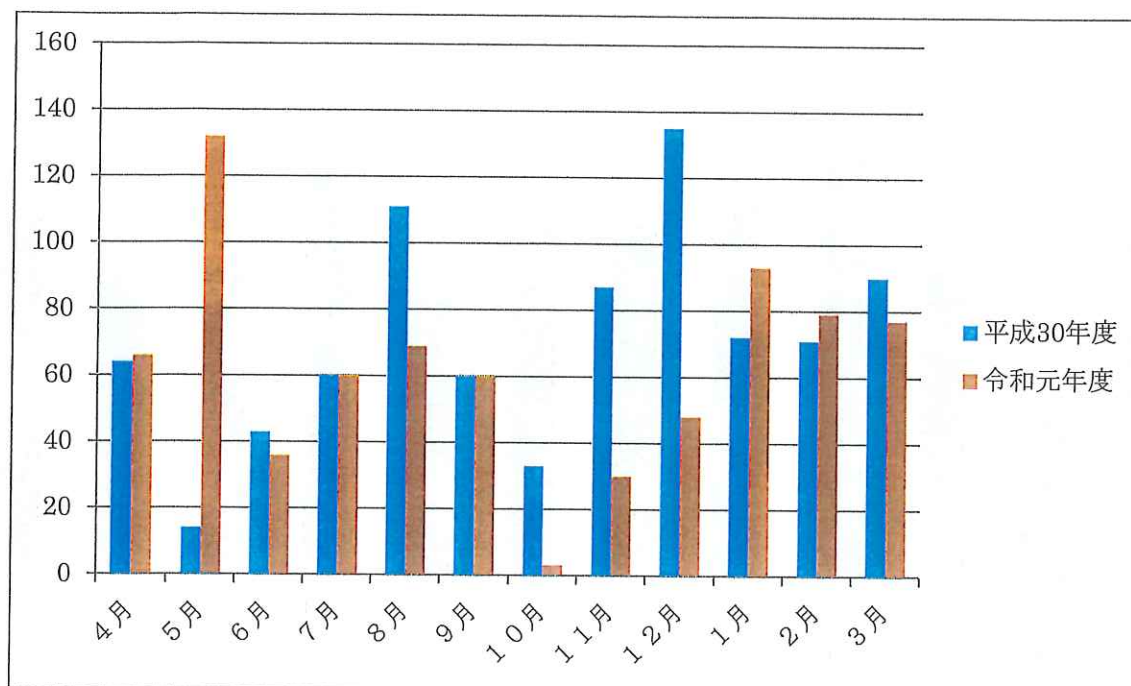


表5 延入院者数の推移及び年度比較（単位：人）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
令和元年度	66	132	36	60	69	60	3	30	48	93	79	77	753
平成30年度	64	14	43	60	111	60	33	87	135	72	71	90	840

※延実入院者数は、再入院・再々入院の方も含む。

表6 実習受入状況

実習校名	人数	受入期間
群馬パース大学 福祉専門学校	3	令和 元年 5月13日～ 6月 5日
	3	令和 元年 10月 8日～11月14日
	3	令和 元年 11月18日～12月 5日
吾妻中央高校	3	令和 元年 5月20日～ 6月 7日
	3	令和 元年 7月22日～ 7月26日
	4	令和 元年 7月29日～ 8月 9日
	4	令和 元年 9月30日～10月11日
渋川青翠高校	3	令和 元年 7月23日～ 7月26日

表 7 外部研修参加状況

研修名	参加人数	研修期間
嚥下講習会	1	令和 元年 5月30日
摂食嚥下研究部会研修	3	令和 元年 6月 4日
介護技術Ⅰ	2	令和 元年 5月30日
認知症ケア講座	2	令和 元年 6月 7日
中堅職員研修Ⅱ	1	令和 元年 6月20日より 計3日間
認知症ケア講習	2	令和 元年 6月24日
認知症介護実践者研修	1	令和 元年 6月28日より 計7日間
医学的基礎知識講座	2	令和 元年 7月 4日
渋川褥瘡ケア研修会	2	令和 元年 7月 8日
新任職員研修	2	令和 元年 7月10日
摂食嚥下研究部会研修	2	令和 元年 8月 6日
認知症VR体験	1	令和 元年 9月 1日
腰痛予防対策講習会	1	令和 元年 9月 5日
感染症対策研修	3	令和 元年 9月10日
関東ブロック研究総会 (静岡県浜松市)	1	令和 元年 9月26日～27日
摂食嚥下研究部会研修	2	令和 元年10月 1日
キャリアアップ研修	1	令和 元年10月 2日より 計2日間
ひもときシート活用講座	2	令和 元年10月 8日
在宅ケアネット渋川	3	令和 元年10月10日
排泄ケアセミナー	2	令和 元年10月16日
口腔ケアワーカー研修	1	令和 元年10月20日
実習指導者特別研修	1	令和 元年11月 2日より 計4日間
認知症VR体験	2	令和 元年11月11日
介護技術Ⅲ	2	令和 元年12月17日
家族の思いを支える講座	1	令和 元年12月20日
リスクマネジメント講座	1	令和 2年 1月 9日
疥癬研究会	2	令和 2年 1月16日
アンガーマネジメント	2	令和 2年 1月24日
アセッサー（評価者）研修	2	令和 元年 11月より 自己学習及び課題提出の上試験 (2人とも合格)

8) オンブズマン報告

利用者の要望の聞き取り及び苦情解決システムの一環としてNPO法人「はあとらんど」にオンブズマンを依頼し、処遇改善につなげた。主な内容としては、感染症対策などの時事的な取組み状況の確認と他施設との比較、オンブズマンとしての知識と経験から気づいた点を巡回終了後に伺い話し合い、当日の速報及び後日書面で報告を受け、各部署で内容確認し、検討・解決を図っている。

9) 会議実施状況

会議名	年間実施回数	平均出席	参加職種	会議の内容
特養部全体会議	12回	26人	施設長 特養部長 施設ケアマネ 介護職員 看護職員 管理栄養士	懸案事項審議、方針の徹底、報告、連絡など
サービス担当者会議	12回	7人	施設長 特養部長 施設ケアマネ 介護課長 介護課長補佐 管理栄養士 看護課長 介護係長	利用者ケアプランにおけるサービス内容の検討、状況確認、モニタリングなど
リスクマネジメント作業委員会	12回	4人	介護課長 介護職員	事故分析、環境整備、マニュアル見直し、職員教育
入所検討委員会	12回	13人	評議員 施設長 事務長 特養部長 施設ケアマネ 介護課長 看護課長 用務課長 管理栄養士 地域包括副部長 居宅ケア副部長 居宅ケア課長 居宅ケア看護課長 居宅介護支援課長	入所待機者の動向確認とグループ分け及び入所決定についての総合的な検討など

感染症予防 対策委員会	1 2 回	8 人	施設長 特養部長 介護課長 看護職員 介護職員 栄養士 調理員	感染症対策の検討及び発 生時の対処方法の統一な ど
身体拘束適 正化委員会	1 2 回	7 人	施設長 特養部長 施設ケアマネ 介護課長 管理栄養士 看護課長 介護係長	身体拘束に対して、緊急や むを得ず実施する場合の 留意点及び拘束解除に向 けた検討の実施など
スキルアッ プ委員会	1 2 回	8 人	施設長 介護課長 介護課長補佐 介護係長 介護職員	介護技術及び知識の向上、 統一した適切な介護サー ビスの提供を目的に業務 内容の見直し検討を行う

10) 行事報告

利用者の生活のリズムを構築するため、下記の季節行事を実施した。

行事名	実施日	内 容
花 見	3月下旬～ 4月上旬	お花見の実施。おやつとお茶の提供を実施した。
野 点	5月11日	渋川女子高校茶道部の学生による抹茶と饅頭の提供を実施した。
納涼祭	8月 4日	施設全体を開放し、夏祭りを実施。慰問「小野上太鼓」 「半田八木節保存会」を招き実施した。 参加家族：38家族72人 ボランティア参加：渋川青翠高校・吾妻中央高校・群馬医療福祉大学・群馬医療福祉短期大学・長野原高校。計28名
敬老会	9月16日	慶祝状贈呈式と慰問「松島道場」を招き実施した。
ホーム忘年会	12月11日	宴会食の提供。利用者とともに鍋を作り、くじ引きなどを実施した。
クリスマス会	12月 18日	渋川第四保育所の園児によるお遊戯とふれあい交流としてプレゼント交換を実施した。
餅つき大会	12月 28日	利用者と一緒に餅つきと鏡餅作りを実施した。
新年祝賀会	1月 1日	新年の挨拶をし、おせち、お雑煮を提供した。
赤飯配布	1月25日	お赤飯を作り、民生委員にて半田・八木原・有馬地区の独居老人宅に配布した。
節 分	2月 3日	年男年女の利用者紹介。豆の代わりにお手玉を使用して豆まきを実施した。

定例行事	実施日	内 容
誕生会	12回	毎月1日に祝い食（お赤飯）の提供を行った。 その他ご利用者個別の誕生日会を実施した。
お盆供養	8月15日	真光寺の副住職を招き、実施した。
秋の彼岸回向	9月24日	
春の彼岸回向	3月19日	

4. 居宅ケア部

令和元年度は、①「在宅生活を支える事業所」として職員一人ひとりが在り方を考えること、②「利用者の笑顔のために」をコンセプトとしたケアの実践に取り組んだ。利用者のケアを行ううえで必要な『心』『技』を考えながら利用者に必要な課題の抽出をより具体的に考え実践につなぐことができた。

1) 年度目標

- (1) 求められる事業所・職員としての立場の確立。
- (2) 介護・医療の連携によるチームケアの構築。

2) 目標に対する取り組み結果

- (1) 役職や委員会・経験年数に合わせた外部研修への参加を積極的に行った。その内容を踏まえ、内部へのブラッシュアップを行い、利用者個別の課題に合わせたケアを、職員全体で共有し実践につなげることができた。また、前年度から行っている全体会議の時間を利用した月1回の内部研修(勉強会)の継続と、職員面談で個々に掲げた目標に向けて、意識的に努めることができた。
- (2) 介護・看護各課から成る係長会議を中心に、職種間での情報共有と実践に結び付けるような協議・取り組みを行った。家族から聞き取った情報についても、全員で具体的に共有することで、事業所として行う支援内容を明確にしてケアにつなげられた。

3) 看護課

(1) 年度目標

1. 利用者の健康管理・体調変化への早期発見と不安の解消。
2. 多職種での統一した対応による個別ケアの充実。

(2) 年度目標に対する取り組み結果

1. 利用者個々への傾聴に努め、健康に関すること・生活全般に関する助言を行った。利用日に限らず、自宅で過ごす日も含めた体調変化の確認を細かく行うことで、軽微な不調時の早期発見や受診の助言にも速やかにつながった。この結果、体調に関する困りごと・不安に対する相談相手として、信頼関係を深めることができた。
2. 看護師による体調不良に関する留意事項の速やかな発信と、介護職員の気づきの共有を強化することで、チームとして個別処遇を考える形づくりがしっかりと行えた。

4) デイサービス

利用者の生活全般に対する相談に細かに応じることが、利用者自身だけでなく、関係者からの評価に大きくつながることを実感する一年であった。送迎時や毎回持参して頂く連絡帳の家族からの記載内容についても、丁寧でより具体的な返信に努めたことで、自宅での様子報告以外にも介護の悩みなどを毎回報せて下さる方も増え、その相談に応じ関係性を深めることが出来た。この繰り返しにより家族だけでなく、近隣への評判・ケアマネジャーからの評価にもつながることができた。

(1) 年度目標

1. 月間延べ利用者数、700人の確保。
2. 個別処遇の充実。

(2) 年度目標に対する取組み結果

1. 令和元年度は、年度を通した予約利用者数および実績利用者数が過去5年間で最高人数を達成することができた。ケアマネジャーとの連携も細かに重ね、新規利用者数も月平均で3～5人と増加、また利用回数追加の希望者も月平均1～2人と増加した。

なお、2～3月については、週3回以上の利用者が複数人、長期入院や施設入居へ移行されたことと、2月末以降は新型コロナウイルスの影響を受けて、新規利用者や利用回数追加の依頼が激減した。

2. デイサービスの基本である「自宅の生活に合わせたケア」を改めて念頭におき、「利用者個々の暮らし」に向き合えるよう本人・家族へ情報を細かく聞き取り、職員が共有を深めることで、利用時間内で行えるケアを明確にすることが出来た。「一方的なりハビリや楽しみの時間」といった大規模ケアではなく、個別の生活実態に合わせたケアに努めることができた。

5) ショートステイ

(1) 年度目標

1. ベッド稼働率117%、(1日10.5人) 特養と連動した空床利用。
2. 短期入所生活介護計画に則ったサービス内容を提供する。
3. 段階的に感染症対策を実施。施設内感染を防ぐ新マニュアル作成。

(2) 年度目標に対する取組み結果

1. ベッド稼働率は116.5% (1日10.49人)

4月から12月までは、特養部の定員調整を含め順調に稼働率120%を達成していたが、2月・3月と新型コロナウイルスによる社会的活動の自粛等により、家族の利用ニーズがなくなりキャンセルが増えたために、ベッド稼働率目標をわずかに下回ってしまった。

この新型コロナウイルスへの対応としては、利用者家族の海外渡航歴、県外居住の方との接触や外出状況の確認を進め対応した。その中で、感染リスク回避のための利用延長や感染状況が長引く中不安を取り除くための長期利用等が出てきている。

月間実利用者数35人以上については、36.75人と目標を上回ることができた。入所待機中の利用者については、永光荘入所6人、他事業所入所5人、死亡2人であった。

2. ケアプランの内容を基に短期入所生活介護計画書を作成し、家族の抱える課題を共有し、求められる自立支援の働きかけ、生活動作が行いやすい環境整備を行った。本人、家族からは昼夜逆転の防止（日中の覚醒維持）や歩行力の維持、安定、下肢筋力強化等の要望に対して、鬼石式筋力トレーニングや下肢筋力トレーニング、個別の歩行練習や集団レクを毎日実施した。また、利用者の安全で快適な生活環境にするために、フロア内イス40脚、超低床ベッド2台、スイングアーム介助バー2本、置き型手すり2台を購入し、活用している。

3. 10月に退院後の新規利用者が疥癬の罹患判明。在宅の介護力見込めないため、個室対応にて長期ショート利用受入れを行った。その後、11月にも2人目の疥癬罹患患者出るも、二次感染なく終息した。疥癬対応については、研修に参加し、情報を見直し、最新情報で対応を行った。

インフルエンザ対応としては、感染症発生時期に、感染リスクの高い家族環境に対して情報の発信と確認を行った。インフルエンザA型発症者は利用者2人、職員1人、それぞれ単発の発症にて利用中の感染拡大はなかった。

6) 付表

(1) 介護予防

○予防通所介護 延べ利用者数

(平成30年度)

要支援1・・・397人

(381人)

要支援2・・・498人

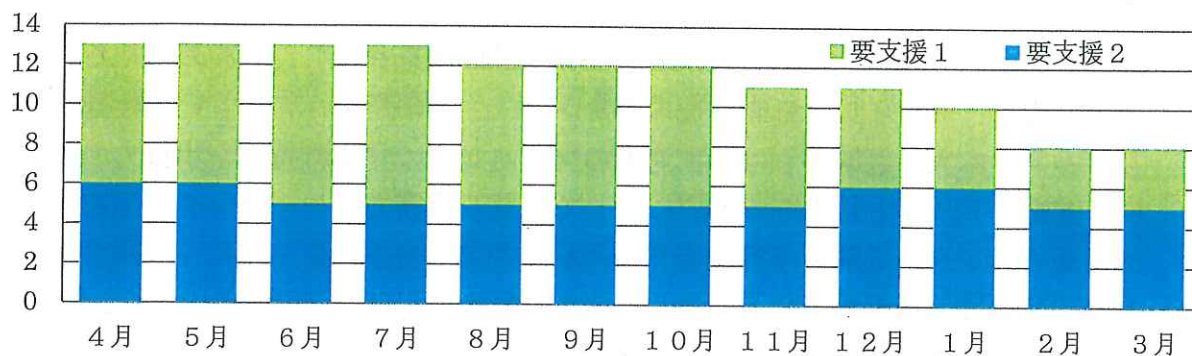
(585人)

合 計 895人

(966人)

表1 予防通所介護月別実利用者数

(単位：人)

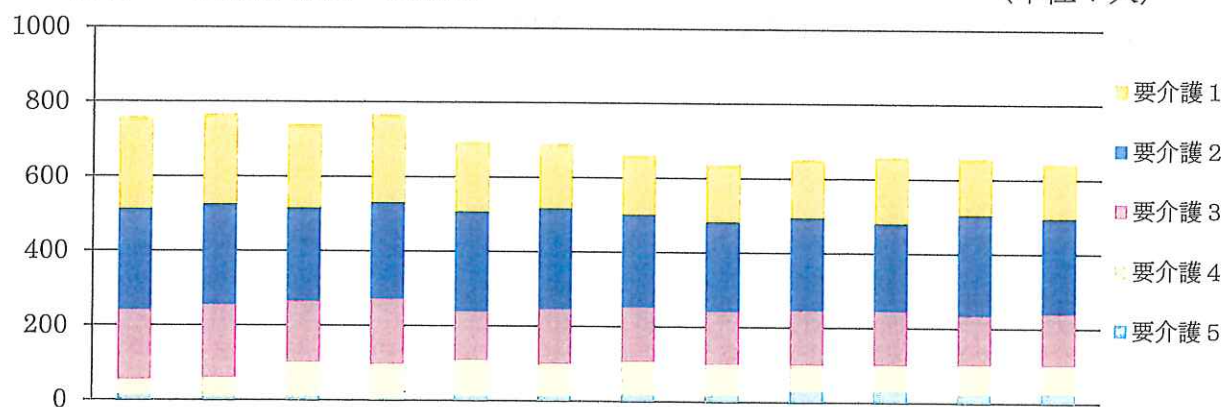


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
要支援1	7	7	8	8	7	7	7	6	5	4	3	3	72
要支援2	6	6	5	5	5	5	5	5	6	6	5	5	64
合 計	13	13	13	13	12	12	12	11	11	10	8	8	136
平成30年度	11	13	13	11	11	11	12	12	13	9	11	12	138

(2) 通所介護

表2 通所介護延べ実績数

(単位：人)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
要介護1	247	242	225	237	189	175	160	154	157	179	153	149	2,267
要介護2	270	269	250	258	268	269	248	240	248	234	269	255	3,078
要介護3	186	194	162	173	129	146	145	141	146	145	132	139	1,838
要介護4	43	55	94	97	97	88	90	84	71	71	79	76	945
要介護5	12	6	8	1	12	12	17	17	29	29	23	25	191
合 計	758	766	739	766	695	690	660	636	651	658	656	644	8,319
平成30年度	525	591	607	607	602	560	684	636	665	662	653	687	7,479

表3 利用者総実績数＜介護(延)・予防(延)総利用者数＞

	目標利用者数	予約利用者数	実績利用者数
令和 元年度	8, 258人	9, 860人	9, 214人
平成30年度	8, 534人	9, 162人	8, 445人
平成29年度	8, 390人	8, 854人	8, 047人
平成28年度	8, 447人	8, 936人	7, 907人

(3) ショートステイ

表4 月間実利用者人数平均値及び延べ利用者数

年度	平均値	延べ利用者数
令和 元年度	36.75人	3, 840人
平成30年度	31.42人	3, 735人
平成29年度	32.92人	3, 835人
平成28年度	30.42人	3, 498人

表5 新規利用者及び利用休止者 (単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規	4	2	2	0	0	2	0	2	3	1	3	3	22
休止者	0	0	0	0	1	0	2	3	2	2	2	1	13

表6 令和元年度利用者数推移

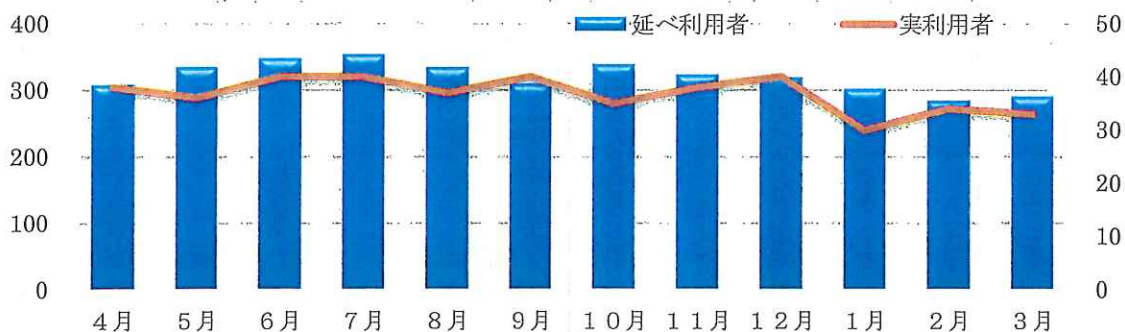
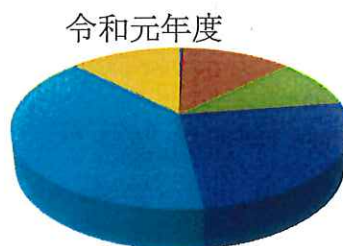


表7 要介護度別の利用状況について

■ 要支援2
■ 要介護1
■ 要介護2
■ 要介護3
■ 要介護4
■ 要介護5



単位：人

	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
令和 元年度	13	482	373	978	1, 508	486
平成30年度	48	262	295	1, 554	1, 224	352

7) 居宅ケア部活動状況

①鬼石式筋力トレーニング

実利用者数 18人 開催回数 87回

②納涼祭の参加 8月 4日 (日)

③新年祝賀会の参加 1月 1日 (水)

④帰りの会特別企画理事長講話

平成31年4月から月2回開催 22回

⑤余暇時間の活用

・外部慰問音楽療法への参加 5月29日 (水)

8月21日 (水)

11月27日 (水)

2月27日 (水)

・書道活動

・手芸活動

※作品はフロア内に展示を行った。

会議実施状況一覧

会議名	年間実施回数	平均出席	参加職種	会議の内容
居宅ケア部 全体会議	12回	12人	施設長 副部長 介護課長 看護課長 介護職員 看護職員	懸案事項審議、方針の徹底、報告、連絡など
係長会議	11回	8人	施設長 副部長 介護課長 看護課長 介護係長	利用者サービス内容の検討、状態確認、サービス実施状況の確認・管理、業務管理など
事故防止 委員会	6回	3人	介護課長 介護係長 介護職員	事故分析、環境整備など
環境整備 委員会 リハビリ 委員会	11回	7人	副部長 介護課長 看護課長 介護係長	環境整備全般、利用者のリハビリ実施状況の確認・管理全般など

5. 設備関係整備年表

1995 (平成 7) 年	3月31日	スプリンクラー設備工事 (社会福祉施設設備補助) 完了
1999 (平成 11) 年	3月31日	自立浴・機械浴室統合工事 (大規模修繕事業) 完了
2000 (平成 12) 年	7月10日	厨房統合工事完了
	11月13日	居室等施設内空調機改修工事 (大規模修繕事業) 完了
2001 (平成 13) 年	3月26日	ナースコール改修工事 (業務省力化設備事業) 完了
	5月26日	デイルーム確保・医務室移転等事業 (大規模修繕事業) 完了
	10月18日	屋根改修工事業 (大規模修繕事業) 完了
2003 (平成 15) 年	5月21日	食堂ホールの空調機改修工事 (中央競馬場主社会福祉財団助成)
2004 (平成 16) 年	1月30日	温冷配膳車導入 (5台)
	8月30日	洗面台を自動センサー式に交換 (4台)
	12月31日	オゾン殺菌脱臭機導入 (1台)
2006 (平成 18) 年	6月 4日	スチームクリーナー 2台導入
2008 (平成 20) 年	6月 8日	自立浴浴槽縁改修工事
	10月31日	給湯用ボイラー交換工事完了 (1台)
2009 (平成 21) 年	1月31日	全自動汚物除去機交換工事完了 (1台)
	4月13日	加湿空気清浄機導入 (大型 12台)
	6月 5日	ドクタープラス生成機導入 (1台)
	9月25日	加湿空気清浄機導入 (小型 45台)
2010 (平成 22) 年	3月31日	トイレ改修工事、ナースコール・電話設備交換工事 (大規模修繕事業) 完了
	6月24日	多機能型居宅ケアグループ (ショートステイ・デイサービス) 相談室設置工事完了
	10月 8日	職員玄関手前間仕切り用自動ロックドア設置
	10月22日	給湯用ボイラー (補助用) 交換工事完了
	12月 2日	ショートステイ用個室トイレ改修工事完了
2011 (平成 23) 年	2月 6日	機械浴槽入替工事完了
	7月20日	用務員室クロス張替工事完了
	7月31日	職員玄関前及びリネン倉庫前舗装工事完了
	8月 4日	北側及び南側ポーチ段差解消工事完了
	8月11日	厨房屋根防水工事完了
2012 (平成 24) 年	3月30日	リネン庫及び職員玄関通路屋根設置工事完了
	5月15日	施設内パソコン入替工事完了
	6月 2日	調理室内空調機交換工事完了
	7月17日	北側ポーチ前駐車スペース舗装工事完了

	7月27日	駐車場用地（渋川市半田778-8外1筆） 競売により取得
2012（平成24）年	11月19日	北側新駐車場（来客用兼夜勤者用）工事完了
	12月18日	厨房内スチームコンベクション入替工事完了
	12月26日	厨房内自動食器洗浄機入替工事完了
2013（平成25）年	4月10日	調理職員用休憩室設置工事完了
	10月31日	スーパー低床介護ベッド3台導入
2014（平成26）年	5月31日	洗濯物干し場屋根・食堂東側テラス修繕工事完了
	8月31日	受水槽増設工事完了
	8月13日	西側ブロック塀（中央部）に上毛カルタを塗装
	9月30日	非常用放送設備（事務所・第2介護員室）入替工 事完了
	12月25日	厨房内ガステーブル入替完了
2015（平成27）年	3月31日	建物外壁修繕工事（大規模修繕事業）完了 ぐんまちゃんの絵を塗装 北側給湯用ボイラー入替工事完了
	8月26日	西側ブロック塀（南寄り）に上毛カルタを塗装
	11月19日	高圧開閉器（PAS）・ケーブル交換工事完了
	11月30日	施設内空調機改修工事（大規模修繕事業）完了
2016（平成28）年	5月20日	カラオケ機材（JOYSOUND）導入
	5月23日	汚物除去機（洗濯室）入替工事完了
	6月 3日	乾燥機・洗濯機（洗濯室）入替工事完了
	9月17日	洗濯室内改修工事完了
	12月15日	居室内給水管分岐取付工事
2017（平成29）年	1月16日	火災通報専用電話改修工事
	7月20日	浄化槽内水中ポンプ更新完了
	7月29日	調理室配管漏水修繕工事完了
	9月26日	東側擁壁補強工事完了
2018（平成30）年	1月 5日	南側玄関ポーチコンクリート修繕工事
	2月 1日	食堂ホールパーテーション設置工事（渋川市 古巻地域包括支援センター事務所用）
	3月 7日	スーパー低床介護ベッド3台導入
	5月11日	北側玄関自動ドア工事完了
	9月 5日	南側受水槽ポンプ交換工事完了
	11月 8日	北側受水槽ポンプ交換工事完了
	12月12日	テーブル型冷蔵庫1台 冷凍冷蔵庫1台更新
2019（平成31）年	2月20日	スーパー低床介護ベッド3台導入
2019（令和 元）年	10月31日	温冷配膳車5台リースにより入替
2020（令和 2）年	1月29日	スーパー低床介護ベッド7台導入
	1月31日	永光荘西側ブロック塀撤去・フェンス設置工事